

颯 走

寝屋川高等学校 陸上競技部

60周年記念誌



60周年記念実行委員会

目 次

寢屋川高校陸上競技部 OB・OG 会 60 周年を祝して

ご 挨拶	寢屋川高校陸上競技部 OB・OG 会長	小森 泰弘……	4
祝 辞	寢屋川高等学校校長	秦 寿孝……	6
祝 辞	寢屋川高等学校北水会会長	天岡 孝芳……	8

創部 60 周年記念誌 発刊にあたって	60 周年記念誌実行委員……	10
---------------------	----------------	----

座談会「歴代顧問を囲んで」	……	11
---------------	----	----

その 1 三原先生 (1955 年～1968 年) を囲んで	……	12
--------------------------------	----	----

その 2 竹林先生 (1977 年～1989 年) を囲んで	……	22
--------------------------------	----	----

その 3 奥田先生 (1989 年～2003 年) を囲んで	……	31
--------------------------------	----	----

座談会 23 期～27 期 OB 有志	……	37
---------------------	----	----

十種競技との出会い	古城 健 (32 期生) ……	42
-----------	-----------------	----

世界ジュニアに出場して	白川 陽子 (46 期生) ……	44
-------------	------------------	----

高校時代の思い出を語る

円盤投げのじゅず 36m88	珠数 泰夫 (7 期生) ……	46
----------------	-----------------	----

追憶	島田 孝治 (9 期生) ……	47
----	-----------------	----

4×400mリレーの思い出	田中 泰夫 (11 期生) ……	48
---------------	------------------	----

創部 60 年に寄せて	木南 文孝 (16 期生) ……	49
-------------	------------------	----

素敵な先輩に出会って	油谷 佳代 (18 期生) ……	50
------------	------------------	----

今も、幸せ！	宮武 寛 (34 期生) ……	51
--------	-----------------	----

高校時代の思い出	小森 隆弘 (41 期生) ……	52
----------	------------------	----

恩師に感謝して	山本 裕江 (41 期生) ……	53
---------	------------------	----

思い出コラム・・・それぞれの青春	54
------------------------	----

今井明倫 (17 期生) / 阿部繁雄 (21 期生) / 北岡進 (23 期生) / 高岡秀行 (27 期生)
 永楽明子 (34 期生) / 真田記世美 (42 期生) / 柳史郎 (43 期生) / 谷口裕子 (44 期生)
 小島まき子 (48 期生) / 川口枝佳 (54 期生) / 片岡沙知 (56 期生)

主な戦績

大阪高等学校陸上競技対校選手権大会 (O. I. H)	58
全国高等学校陸上競技対校選手権大会 近畿地区予選会	61
全国高等学校陸上競技対校選手権大会	
大阪高等学校総合体育大会 陸上競技の部	62
近畿高等学校総合体育大会 陸上競技の部	65
大阪高等学校駅伝競走大会	
大阪高等学校総合体育大会 駅伝の部	
国民体育大会	

歴代記録・・・高校時代の足跡

男子	67
女子	78
駅伝	86
寝屋川高校陸上競技部 OB・OG 会 事務局より 田中 文夫	87
OB・OG 会 会員数	88
編集後記	89

ご挨拶



寝屋川高等学校陸上競技部 OB・OG 会会長

小森 泰弘

寝屋川高校陸上競技部 OB・OG 会会員の皆様におかれましては益々のご活躍のことと存じます。

昭和 23 年に新制高等学校が開校されて以降、陸上競技部の活動は数年遅れて 6 期生、7 期生の頃から始まりました。昭和 30 年代の三原先生の頃より現在の光永先生まで歴代の顧問の先生方には、グラウンドの指導、試合の付き添い、合宿、試合の申し込みなど、その他いろいろなところでお世話になりました。50 年代の竹林先生におかれましては、50 歳の半ばで体調を崩されご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

陸上競技部が発足して以来早 60 年になろうとしています。この間 550 余名の部員を送り出してきました。個々の選手の活躍も多々ありましたが、学校別としては竹林先生の昭和 55 年と 63 年でしょう。近来、私学校が優勢の中、55 年、大阪高校選手権大会において、男子の部、100m 2 位、400m 4 位、400mH 3 位、4×100mR 2 位、4×400mR 4 位、走幅跳 1 位に入賞、得点 26 点、総合 3 位。女子の部でも、100mH 5 位、走幅跳 4 位、と数多くの入賞をしました。今では考えられないくらいの活躍でした。63 年には、男子で 400m 3 位、3000mSC 2 位、4×400mR 4 位、三段跳 2 位、総合 6 位、マイルは 2 年連続の近畿大会出場でした。女子も、3000m 3 位、走幅跳 1 位などこの年も大活躍でした。悪友である竹林先生が生きていたら、その当時のいろいろな話が出るのに残念です。



個人では、42年に村田一郎君が砲丸投げで、大阪、近畿のインターハイで優勝しました。彼が3年生の時、三原先生が指導をされ、私が投げ返しをしていたのを今も思い出します。また駅伝でも、男子で2時間19分20秒を最高に数多くの入賞をしています。また女子でも、1時間18分20秒で4位となるなど活躍をしています。

さて、学校創立90周年を迎えた頃、残念ながらOB会は存在していませんでした。当時顧問の奥田先生からたびたびOB会創立の要請がありましたが、当時、それぞれが現職にありましたので実現に至りませんでした。その後、私を含め14期生が退職を迎えた頃、先輩の皆様方にも相談し、やっとのことで創立に踏み切ることができたのです。60周年行事に際して、名簿の作成、記念誌の作成、顧問を囲んでの座談会など、役員の皆様には多大なお世話をいただきました。深く感謝しております。

OB会の目的は、会員相互の親睦をはかり、且つ、寝屋川高校陸上部の健全な向上発展に寄与することです。会員皆様の援助で平成17年度より、少しずつ親睦や現役生のサポートを実施しております。しかし、まだ十分ではないと思っておりますので今後ともよろしく願いいたします。OB会も現役員が1期生とするならば、いずれ2期生、3期生へと受け継いでいかなければならないと思います。そして、70周年、80周年へと継承していただきたいと思っています。

最後に皆様方のご健勝を心からお祈りいたします。

陸上部創部 60 周年を祝して



寝屋川高等学校長 秦 寿 孝

本校伝統の陸上部が創部 60 周年に際し記念誌を発行されることを共に喜びたいと思います。今年は学校の創立 100 周年に当たり、北水会や P T A を中心に大切な節目を皆でお祝いし、次なる 100 年に向けてさらに力強い一歩を踏み出さんと記念式典や記念誌の刊行、クラブハウスの建設を目指した記念事業など本当に盛りだくさんな企画で大いに盛り上がっているところです。

100 年の栄えある歴史の中で陸上部はいつもその中心として素晴らしい活動を展開され、輝かしい歴史を刻まれてきました。現在では部員数も 60 名を超え、トラック & フィールドのほとんどすべての種目に取り組む生徒を有する府下でも有数の有力校として中央大会、近畿大会そして全国大会を目指して、夕暮れまでの短い時間ですが、爽やかな汗を流してくれています。どうか学校にもお立ち寄り頂き、頑張っている生徒たちに激励の声をかけていただければと存じます。

さて、少しページをお借りして現在のそしてこれからの寝屋川高校のことに触れたいと思います。私は 100 周年の歴史を振り返り、これまでの多くの先輩諸氏が築き上げられた伝統、『強み』を確りと受け継ぎ、守り、その上に新たな時代の要請、強み、特色を積み重ねていこうと考えています。伝統の強みとは文武両道という言葉に代表される『人』を育てる府立高校らしい教育に他ならないでしょう。『堂々たる府立高校たれ』、これをこれからも大切にしていかなばと肝に銘じています。また、



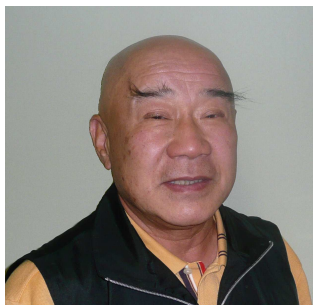
寝屋川高校に求められるもう一つのもの、それは『進学校』としての万全の体制でしょう。生徒の学力を3年間で確りと鍛え、進路を保障していかねばなりません。今年度からは普通科コース制も取り入れ、65分5限授業にも挑戦し、より一層進路保障の充実と進学校としての体制整備にも取り組んでいるところです。

私は民間企業で人事本部長をしていました。社会に出て永く成長、活躍を続けることができる人の条件は志と専門力とコミュニケーション能力を持ち、うまく活かせることでした。そしてそうした『人財』を育てることが寝屋川高校の社会的使命ではないでしょうか。多くの先輩が築いて下さった伝統の上に、現在の教職員が力を合わせ新たな特色を積み重ね『次なる100年』をまた充実したものにしていく所存です。また100周年記念事業に際し物心両面の力強いご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

本誌は『寝屋川資料』に加えると共に、図書室で閲覧できるものとし、後輩たちの今後の目標、指針として永く活用させていただきたいと存じます。

最後に寝屋川高校陸上部のさらなる発展を期待すると共に、グラウンドに集いし『同志』の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

寝屋川高校陸上部 創部六十周年によせて



北水会会長 天岡孝芳

寝屋川高校陸上部、創部六十周年、誠におめでとうございます。

私が、寝屋川高校という学校を意識したのは、昭和三十二年、中学校時代の高校野球でした。早稲田実業との延長戦は、今でも脳裏に焼き付いています。

入学して、創立五十周年にあたり、人文字で五十と書くことになり、グラウンドに並び、グライダーが飛んできて写真を撮ったことを覚えています。

クラスメイトで竹林君と出会いました、私は、柔道部でしたが、彼は陸上部で頑張っていました。いつも、臼杵先生（三原先生）の素晴らしさを語ってくれました。くしくも彼と同じ大学へ進もうとは思っていませんでした。大学にうまく二人合格して間もなく、「君らは、寝屋川高校の出身なら珠数さんを知っているか？」と言われ、初めて陸上部の先輩と知り驚きました。そもそも、珠数さんがおられたのは、寝屋川高校が高等学校として、男女共学になってから七年ぐらい経過した頃の陸上部で、私達より六年先輩になります。

その後、私は、昭和四十一年、寝屋川高校に、教諭として帰ってきました。初めて同僚として恩師三原先生とご一緒させていただくこととなりました。現実には、寝屋川高校陸上部の専門的な教諭は、三原先生が最初ではないでしょうか、私にとっては、恩師ばかりのおられる寝屋川高校でした、その中で、いろいろ高校教諭としてのノウハウを教えていただき、今日の私があるのは先生のおかげだと感謝して



います。三原先生は、身体もしなやかで、感受性豊かな天性の器用さを持った、全てのスポーツをすぐマスターされる先生でした。さすが全日本のトップの選手であると私は痛切に感じました。三原先生は、私にとって、尊敬の先輩であるし、恩師でもあるのです。最近先生とゴルフをご一緒させていただく機会を得ました。元気でいらっしゃる先生を見て、大変懐かしく感じると共に光栄に思いました。やはりゴルフも、しなやかなフォームで目を見張る思いでした。

話は、そうこうしているうちに、昭和五十二年竹林君が寝屋川高校の教諭として帰って来ました。同僚として良きライバルとして、お互いに体育教諭として頑張りました。彼の時代に、大阪府高校陸上界に名を残す、多くの選手を育てられた功績は、すばらしいものと思います。今は亡き竹林先生に敬意を表すると共に、ご冥福をお祈りいたします。

私ごとを申し上げただけで大変恐縮ですが、お祝いの言葉といたします。現在の寝屋川高校陸上部も、三原先生はじめ竹林先生、奥田先生、三宅先生、小森コーチの精神を伝授され、現在の光永先生のもと、毎日厳しい練習に励んでおられるようです。

最後に、寝屋川高校陸上部の卒業生の皆様のご多幸と、母校陸上部の益々の発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

創部 60 周年記念誌 発刊にあたって

60 周年記念誌実行委員会

2006 年の O B ・ O G 会役員会で、寝屋川高校は 2010 年に 100 周年を迎え、記念行事が企画されているということが話題になり、我 O B ・ O G 会でも何らかのかたちでお祝いをできないか検討しようということになりました。そこでいろいろ検討をしたところ、寝屋川高校陸上競技部は、1950 年前後に設立されて現在に至っている。ということで、学校創立 100 周年と合わせて、創部 60 年として何らかの記念事業をすることが決定されました。

2007 年の役員会で、創部 60 周年事業計画について話し合いがなされました。その結果、二つの事業をするという方針が決定されました。一つは、記念式典とパーティを行い、会員相互の親睦と絆を深めようというもので、もう一つは、形のあるものを残すということで、記念誌をつくることになりました。

戦後の混乱期に創部された諸先輩から今日に至るまでの 60 年に及ぶ活動と人と人とのつながりは、身体的、精神的に逞しい、そして、豊かな心をもった人間の育成に貢献してきたと言えるでしょう。そのことは、顧問の先生方のご指導とご尽力なくしては為し得なかったといえます。

三原先生から、浜田先生と田中先生へ、さらに竹林先生、奥田先生、三宅先生、光永先生へと続き大きな成果と実績を残されてきました。そこで、「歴代顧問を囲んで」の座談会を行い、先生方の人柄や指導方針、その時代の雰囲気や楽しかった思い出、思い悩んだことや現役生に対するアドバイスなどを話し合っただきそれを掲載することにしました。ただ、今回は準備不足や種々の問題により、「三原先生を囲んで」「竹林先生を囲んで」「奥田先生を囲んで」「23 期～27 期有志」の座談会のみになりました。「三宅先生を囲んで」「光永先生を囲んで」につきましては、次回に実施できるよう申し送りをし、会員皆様のご協力により完成させたいと願っています。

寝屋川高校陸上競技部としての、先輩から後輩へと続く一本の糸をさらに太い絆とするために、投稿をお願いし、試合での出来事や思い出、練習や合宿での思い出を語っていただきました。

また、現役生徒の目標となり励みとなり、卒業生にとっては、記録の良し悪しに関係なく、ネヤ高陸上部で何かを得ようと努力した青春の証となるものとして、歴代記録を作成し、そこには、できるだけ多くの記録を収集掲載という方針で、「葦音」を中心に収集に取り組んでまいりました。

この記念誌が、現役生の刺激となり、O G ・ O G にとってはお互いを結びつけることに役立つならば、これほどありがたいことはありません。